

**中** 華人民共和国（以下、「中国」）の山東省は北京と上海の中間に位置する人口約 9000 万人の都市で、中国古代の思想家である孔子が生まれた地としても有名だ。外国語指導助手（ALT）として3月4日に着任した牟海飛（モウ・ハイフェイ）さんもこの山東省出身だ。

「私が生まれた町は田舎で白糖町と同じように近隣同士の仲がいいです。母親は、まんじゅう屋をやっているのですが、近所の人たちの集いの場となっています」

牟さんは、黒柳徹子さんの“窓ぎわのトットちゃん”を読んだこ

とがきっかけで、日本の文化や教育に興味を持ち、大学で4年間、日本語を勉強し、大学院では3年間、日本の教育について学んだ。

「日本に行きたいという気持ちが強かったので、日本語を一生懸命勉強しました。その甲斐もあり有名な航空会社から内定をもらうことができました。ですが、そこでは日本語が生かしても自分が学んだ教育学は生かせないと思い、そこには就職しませんでした」

牟さんは2019年に上海にある教育関係の会社に就職するが、日本の各自治体にALTをあっ旋するJETプログラムを活用し、白糖

町へ来ることになる。

「中国で日本語を勉強していても異文化を体験することはできません。どうしても日本へ行って、日本の教育の仕方を学びたかったのです。ここでは幼児から高校生まで幅広く関わることができます。こんな経験はめったにできることはありません。ここでの生活は本当に夢のようです」

牟さんは、日本に来ていろいろなことを考えさせられたといいます。「例えば日本の福祉ですが、高齢者への支援がとても充実していると思いました。また、子育て支援も充実しています。中国の若い人たちは、経済的な問題で子どもを産み育てることに不安を抱えている人が多く、少子高齢化が進んでいます。白糖町は特に子育て支援が手厚いので、この町で暮らせる皆さんは本当に幸せだと思います」

牟さんは、こども園でも中国語を教えている。

「新しくなった白糖こども園に初めて行ったとき、園児たちが寄ってきて園内を丁寧に案内してくれました。子どもたちから声をかけてくれて、とてもうれしかったです。白糖の子どもたちは本当にかわいいですね」

日本に来るといふ夢がかなった牟さん。これからの目標を聞いた。

「日本の子どもたちと勉強している時間を大切に、ここで得た経験を中国の教育に生かしていければと思っています。“初心忘るべからず”という好きな言葉がありますが、窓ぎわのトットちゃんを読んで、日本を、そして白糖町を好きになった気持ちを忘れずに、これからも頑張っていきたいと思います」

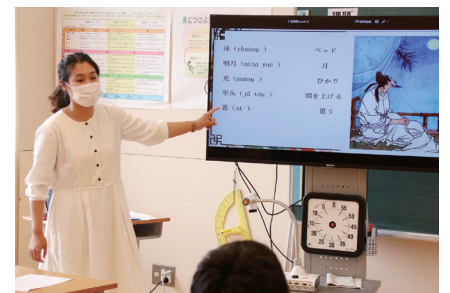
# 牟 海飛

モウ ハイフェイ

1994年1月27日生まれ。中国山東省生まれ。青島工学院（4年）、西北師範大学（3年）を卒業後、上海の教育関係会社へ就職。趣味は料理。好きな食べ物はトマト。日本に来てから納豆が好きになり、毎日食べている。両親、妹との4人家族。



「日本へ行って、日本の教育の仕方を学びたかったのです」



庶路学園6年生の中国語授業。「中国の物語や歌を交えながら、中国に興味を持ってもらえるような工夫をしています」と話す牟さん。